

サクソフーンオーケストラ

# 冬の演奏会

2021年12月19日（日）開演18:30（開場18:00）

## programme

Claude Achille Debussy/Prélude à "L'après-midi d'un faune

Camille Saint Saens/Bacchanale

Joseph Maurice Ravel/Rapsodie espagnole

Giacomo Antonio Domenico Michele Secondo Maria Puccini/Turandot

George Gershwin/An American in Paris

- △新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い
- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
  - ・大声や対面での会話はお控えください。
  - ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
  - ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
  - ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
  - ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
  - ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

洗足学園音楽大学・大学院

## ご挨拶

2021年度“冬の演奏会”にお運び頂きまして、誠にありがとうございます。

コロナ禍も二年目となりましたが、今年度も活気ある新入生を含め100名を超える履修生で、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、後期成果発表会を迎えることができました。このような世の中となり様々な制限の中、学生もとても不自由で不安な面も多々あったと思いますが、皆様方に支えられここまで乗り切ってこられたことに、心から感謝と敬意を表したいと思います。

さて本日は東京佼成ウインドオーケストラ・正指揮者の大井剛史先生をお迎えし、前半はサクソフォーンの本場フランス近代の作品、後半プッチーニではオペラ作品をどのように表現するか研究し、最後はミュージカルコースとの共演でガーシュインの“パリのアメリカ人”を演奏します。本学では18の芸術系コースがあり、今回のようにお互い刺激を受けあう機会が多くあります。どうぞ最後まで、ごゆっくりお楽しみください。

サクソフォーンオーケストラ 企画運営責任者  
教授 岩本 伸一

師走も半ばを過ぎ、冷気に身の引き締まる季節となりました。本日は“サクソフォーンオーケストラ冬の演奏会”にご来場頂き、誠に有り難う御座います。未だ新型コロナウイルスの影響で、不安な日々が続いている状況ですが、本日無事に演奏会を迎えることができ、とても喜ばしく思っております。後期の成果発表としまして、このメンバーでは最後の演奏ですが、メンバー一同心を込め、お届け致します。

最後に、開催にあたりご指導頂きました指揮者の大井先生をはじめ、ご協力やご指導を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

サクソフォーンオーケストラ 学生代表  
三年 寺東 春美

指揮 大井剛史

演奏 洗足学園音楽大学サクソフォーンオーケストラ  
共演 洗足学園音楽大学ミュージカルコース

# Program

C.ドビュッシー\*/牧神の午後への前奏曲

*Claude Achille Debussy\*/Prélude à "L'après-midi d'un faune"*

C.サンサーンス\*/歌劇“サムソンとデリラ”よりバッカナール

*Camille Saint Saëns\*/"Samson et Dalila" Bacchanale*

M.ラヴェル\*/スペイン狂詩曲

*Joseph Maurice Ravel\*/Rapsodie espagnole*

休憩

G.プッチーニ\*/歌劇“トゥーランドット”より

*Giacomo Antonio Domenico Michele Secondo Maria Puccini\*/"Turandot"*

G.ガーシュウィン(編曲：金井 宏光)/パリのアメリカ人

*George Gershwin(Arr:H.kanai)/An American in Paris*

共演：洗足学園ミュージカルコース

(\* = 編曲：岩本 伸一 Arr:S.Iwamoto)

# Program note

クロード・ドビュッシー (1862-1918) / 牧神の午後への前奏曲

*Claude Achille Debussy (1862-1918) / Prélude à "L'après-midi d'un faune"*

パリ郊外に生まれ、幼い頃からピアノの才能があったドビュッシーは、弱冠 10 歳にしてパリ音楽院への入学を許可される。在籍中は、学内のコンクールで優秀な成績を残し、また伴奏者としても優秀だった。20 歳でパリ音楽院の作曲のクラスでも優秀な成績を修め、その二年後にはフランス作曲家における登竜門のコンクールの一つであるローマ大賞を受賞した。

“牧神の午後への前奏曲”は、1894 年に書き上げた管弦楽曲である。この曲は、ドビュッシーが敬慕していた詩人マラルメの“牧神の午後”をモチーフにして書かれた作品である。詩の内容は、牧神が眠気を誘う昼下がりにはふたりの優雅なニンフ（精霊）たちの夢想をする幻想的かつ官能的なものである。

牧神とはギリシャ神話に登場する半獣神で、獣のような下半身と山羊のような角を持つと言われている。牧神の象徴であるパンパイプをイメージしたフルートソロをアルトサクソフォーンが演奏する。

2 年 渋谷瑛奈

カミーユ・サンサーンス (1835-1921) / “サムソンとデリラ”よりバッカナル

*Charles Camille Saint Saëns (1835-1921) / "Samson et Dalila" Op.47, R288/act3 "Bacchanale"*

今回演奏するバッカナルは、歌劇“サムソンとデリラ”に登場する曲の中のひとつで、第三幕の二曲目である。バッカナルとは古代ギリシアの“酒と収穫の神バックス”を祀る祝祭のこと。このオペラはフランス初の聖書オペラとしても知られ、旧約聖書の“士師記”をモチーフにして作られた。

曲の舞台は紀元前 1150 年ごろのイスラエル・ガザ。ヘブライ人で怪力な英雄サムソンが、敵対するペリシテ人の悪女デリラにかどわかされ、騙され、怪力を奪われてしまう物語である。この曲は、サムソンから怪力を奪い牢獄に入れることを叶えたデリラをはじめとするペリシテ人たちが行う勝利の祭りの場面で用いられる。

冒頭のオーボエソロは優美にソプラノサクソフォーンが演奏する。幻想的なバレエと再現部から終幕にかけての勢いある盛り上がりは圧巻である。

3 年 福地日向子

モーリス・ラヴェル (1875-1937) / スペイン狂詩曲

*Joseph Maurice Ravel (1875-1937) / Rapsodie Espagnole*

この曲は1908年に管弦楽のために書かれた作品である。フランス人ではあるが、フランスとスペインをまたぐバスク地方・シブールの出身であること、母親がバスク人であることなどから、ラヴェルは生涯を通してスペインに強い関心を持ち、スペインを舞台にした作品を多く残している。この“スペイン狂詩曲”は4曲で構成されている。“第3曲ハバネラ”は、1895年の時点で既に二台ピアノのために作曲されていた。のちに“第1曲 夜への前奏曲”、“第2曲 マラゲーニャ”、“終曲 祭り”が作られ、“ハバネラ”を加えた4曲が管弦楽曲として編曲されて“スペイン狂詩曲”が誕生した。このため“第3曲ハバネラ”のみ“第1曲 夜への前奏曲”の主題が登場しない。神秘的な音楽を特徴とする第1曲は前奏曲に始まり、第2曲はスペインの民族音楽“マラガ”に乗ったファンタンゴ、第3曲ではキューバの民族音楽の独特なリズム、終曲はその名の通り祭りが盛り上がる様子が描かれており、全曲を通してスペインの風景を感じられる。

3年 松岡梨帆

ジャコモ・プッチーニ (1858-1924) / 歌劇“トゥーランドット”より

*Giacomo Antonio Domenico Michele Secondo Maria Puccini (1858-1924) / “Turandot”*

“トゥーランドット”とは、フランソワ・ペティ・ド・ラ・クロワが1710年-1712年に出版した“千一夜物語”の中の“カラフ王子と中国の王女の物語”に登場する姫の名前である。この曲はジャコモ・プッチーニの最後のオペラである。彼は全曲を完成させることなく癌のためこの世を去ってしまった。プッチーニのよき理解者であったアルトゥーロ・トスカニーニの助言に従って、作曲者の弟子のフランコ・アルファーノがプッチーニの草稿をもとに全曲を完成させ、1926年4月25日にミラノ・スカラ座で初演された。ただしこの初演では、指揮のトスカニーニは第三幕のリュウの死のところでタクトを置き、聴衆に向かって「ここでプッチーニは仕事を終えました。死は芸術よりも強かったです。」と語り演奏を終えた。翌日の公演では、アルファーノの加筆部分を含む全曲が上演されている。

本日演奏するのは全編中より5つの場面の楽曲で、1曲目は“Popolo di Pekino (北京の民よ)”。舞台は古代中国。この物語の主人公トゥーランドットは求婚者たちに謎をかけ、解けないと殺してしまう恐ろしい姫である。今日も北京ではトゥーランドットの出す謎を解けずに一国の王子の死刑が決まったと役人が民衆に告げていた。2曲目は“Gira la cote! (回せ回せ砥石を回せ)”。この曲の後、処刑の場に登場するトゥーランドットに一目惚れをした“名を秘めた王子 (カラフ)”は、自分もトゥーランドットの結婚相手に立候補することを決意する。3曲目は“Mai nessun m'avrà (私は誰のものにもならない)”。トゥーランドット

は、「先祖の皇女の復讐のために王子たちを試し、処刑していた」と語る。しかし既にトゥーランドットに惚れてしまっていた“名を秘めた王子”は謎への挑戦を続ける。そして3つ全ての謎を見事解いた彼はトゥーランドットとの結婚を勝ち得る。トゥーランドットは「結婚したくない」と父である皇帝に訴えるが、契約は神聖であると撥ね退けられる。そこで今度は“名を秘めた王子”がトゥーランドットに「私の名前を当ててください」と謎を出し、翌日までに答えられたら結婚を白紙にすると約束した。4曲目は“Nessun dorma! (誰も寝てはならぬ)”。結婚したくないトゥーランドットは、北京の街に「王子の名前を探るために誰も寝てはならない」というおふれを出す。あの手この手を使って“名を秘めた王子”を誘惑したり、彼の女奴隷リユーを拷問したりして王子の名前を知ろうとするトゥーランドットだったが、王子もリユーも口を割らない。拷問に耐え続けるリユーにトゥーランドットはその理由を尋ねる。リユーは「愛の力です」と答える。愛を知らないトゥーランドットはその答えを聞いて怒る。ひたすらに愛を伝え続ける王子に絆されたトゥーランドットはついに王子の勝利を認め涙を流す。王子は名前を「カラフ」と名乗り、ティムールの王子であることをトゥーランドットに明かす。5曲目は“Diecimila anni al nostro Imperatore! (とこしえの御代を我らの皇帝陛下に)”。宮殿の大広間でトゥーランドットは父である皇帝と群衆の前で「異国の者の名前は“愛”です」と宣言する。

2年 加藤恵莉菜

ジョージ・ガーシュウィン (1898-1937) /パリのアメリカ人

*George Gershwin(1898-1937)/An American in Paris*

1928年にニューヨークフィルハーモニックの委嘱を受けて作曲され、カーネギーホールにてダムクロッシュの指揮により初演されたこの曲は、ガーシュウィンが休養と勉強を兼ねてパリを旅した経験を交響詩的にまとめたものである。

四幕構成で書かれているこの曲の最初の部分は、パリの大通りを好奇心旺盛に眺め歩くようだ。リズムカルな主題の中に木琴やクラクションの音が絡められることで、大都市の雑踏を巧みに描いている。中間部は、速度を落として曲調はブルースになる。ここではホームシックになったアメリカ人の郷愁がトランペットのメロディで表現される。最後はチャールストンのような小気味よい音楽となり、また雑踏に場面は戻るがブルースの旋律が絡み合い華やかにパリ見物は終わる。

1年 桑原尚紀

# Profile

## 大井剛史（指揮）

東京藝術大学指揮科を卒業、同大学院指揮専攻修了。2009 - 2016 年現千葉交響楽団常任指揮者、2009 - 2013 年山形交響楽団指揮者、2013-2017 年同常任指揮者を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。その他国内主要なオーケストラを指揮し、いずれも高い評価を得ている。現代作品、オペラ、バレエなど幅広い分野で活動中。2008 年アントニオ・ペドロッチェ国際指揮者コンクール第二位。東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師（吹奏楽）。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。



## 洗足学園音楽大学サクソフォンオーケストラ

1995 年、我が国でいち早く合奏授業で取り入れられた、サクソフォンと打楽器から成る同族楽器のオーケストラ。ソプリロ（ソプラノサクソフォンの1オクターヴ上の音域）からコントラバスまで、8種のサクソフォンが使用されている。主に本学主催の成果発表会で保科 洋、秋山和慶、増井信貴、松尾葉子、現田茂夫、梅田俊明、大井剛史、海老原 光、ヤン・ヴァンデルロースト各氏をはじめとする国内外の著名な指揮者を迎え、管弦楽作品を中心に演奏会を行っている。また、東京芸術劇場、横浜みなとみらいホール、ミュゼザ川崎シンフォニーホールや、国内最大級の音楽祭“ラ・フォル・ジュルネ・ジャポニ”に参加するなど活発に活動している。2010 年 11 月にはサクソフォン誕生の地であるベルギー・ディナンを訪問、フランス・ストラズブールでは交流演奏会を行った。サクソフォンならではの繊細かつダイナミックなサウンドはこれからの新たな演奏形態として注目され、高い評価を得ている。

これまでのオリジナル作品として、長生 淳“翼をひろげて”、ピーター・グレイアム“宇宙戦争”、石毛里佳“ブラキスカ”、鈴木純明“キリエ 4.5”を委嘱し、このオーケストラの魅力を世界中に発信する。

2012 年イギリスよりピーター・グレイアム氏を迎えて“宇宙戦争”、2014 年アドルフ・サククス生誕 200 年を記念して“アドルフ 200”、2016 年保科 洋氏との共演“復興”を（株）フロレスタンよりリリースし、好評を博している。



### 洗足学園音楽大学ミュージカルコース

待っているのは数多くの舞台に立つチャンス。共に創り上げた作品でスポットライトを浴び、多くの観客の前で演じることで、俳優は目覚ましい進化を遂げます。

本格的なブロードウェイミュージカル、レビュー公演、ミュージカルアトリエ公演、コンサート、さらにジャズ・現代邦楽コースとコラボレーションをしたオリジナル作品、その他数多くの演目を、日本有数のコンサートホール“前田ホール”や、最新設備の整った“ビッグマウス”、また学外では“新橋演舞場”で上演し、“歌”、“ダンス”、“演技”の舞台経験をつみかさねます。



ミュージカルコース統括  
教授 篠原 真



振り付け,ダンス  
教授 ダイアナ・ポール・石山





# Members

Concertmaster (学4) 倉元明宏 三橋正長

Sopranino (学3) 清水建吾  
(学2) 中原雄太郎  
(学1) 山岸芽以

Soprano (学4) 今川 萌 角谷 滯 藤堂紗也  
(学3) 中條花音 伊藤輝瞳 寺東春美 矢澤 亘  
(学2) 石田真彩 加藤恵莉菜 楠本夢菜 八木寛菜 山崎遼介  
(学1) 新井琴乃 伊藤有莉愛 加藤裕貴 熊木萌奏 泉波陽美  
高矢真優 寺尾作蔵

Alto (学4) 中崎美羽 古梶萌香 本間珠里 本間美桜  
(学3) 伊東玲美 岩城玄仁 加藤舜理 長谷川愛美 松岡梨帆  
(学2) 大幸拓未 龜澤咲葵 小林磨弥 佐藤 零 渋谷瑛奈  
永吉すず音 ZHANG XIAOHAN<sup>†</sup>  
(学1) 阿部友花 新井楓花 木佐木桃花 北島実幸 QIU QI

Tenor (学4) 片岡夏望 加福夏子 黒澤望愛 齋田明日香 辻 水紀  
長谷川莉子  
(学3) 岸本 楓 岡本真尋 兼田柊子 川口華菜 福地日向子  
(学2) 阿部未来 志賀友香 下藤香花 高橋沙綾  
(学1) 植木里花 緒方 柊 金丸璃奈 WEI QIXIAN

Baritone (学4) 鹿島理功 山口紗弥季  
(学3) 重井拓人 岡本彩花 久米愛海 北岡舞帆 酒井優希  
藪井美羽  
(学2) 大澤茉依 鈴木智尋 鈴木ましろ 竹内勇人 吉田勇雅  
(学1) 石川堅大 川崎俊裕 近藤 空 西田大也 新田乙葉

Bass	(学4) 船木彩香 (学2) 齊藤溪太 (学1) 駒田雅乃 坂井 開 吉田朋諒
Contrabass	(学2) 中瀬凱大
Percussion	(学4) 池本羽奈 (学3) 榎本 耀 杉本裕香 前田怜弥 村上愛佳 加藤海夏太 (学2) 阿南杏佳 山野智広 YANG YIDA <sup>♪</sup> 江口和輝
Harp	山内悠里佳 <sup>♪</sup> 大隅レオナ <sup>♪</sup>
Piano/Celesta	茂山 瑤 <sup>♪</sup>
♪…演奏補助	♭ …オンライン受講生
Musical	(学3) 中桐聖弥 望月 凜 (学2) 石田優月 吉田梨乃 木賀 翠 小澤輝碧 高久保来見 (学1) 鈴木愛海 倉科風香 中川姫奈 坂井田祥子
企画運営責任者	岩本伸一
指導教員	大貫比佐志 貝沼拓実 齊藤健太 田中拓也 本堂 誠 小川佳津子 山田 徹 ダイアナ・ポール・石山 (ミュージカル)
授業助手	北野原由依
プログラム作成	福地日向子
Academic- Coordinator	古川原裕仁

